

平成16年度武蔵野市財政援助出資団体経営目標評価シート

| 団体名 | | 財団法人 武蔵野文化事業団 | | | | | | | |
|------|---|---|---------|---------|---------|-----|-------------|------|---------------|
| ① | 指標名 | 主催（共催）事業チケット販売 | | | | 目標値 | 完売 | 実績値 | 完売（111本） |
| | 過去の実績 | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 平成15年度 | 達成率 | 100.0% | 達成状況 | 未実施・未達成（達成） |
| | （単位：本） | 完売・115本 | 完売・104本 | 完売・116本 | 完売・114本 | | | | |
| | 取組内容 | ※16年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①アルテ友の会の会員数を引き続き8,500人確保した。 ②市民が格安で質の高い音楽を鑑賞できるよう独自招聘事業を40本実施した。 ③特色あるPR用チラシを独自に作成し、会員及び顧客に定期的にダイレクトメールを送付した。 | | | | | | | |
| 一次評価 | ※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ○アルテ友の会の会員数を維持し、招聘元を通さない独自招聘事業の実施や積極的な事業のPRにより7年連続で、主催（共催）事業（文化会館、芸能劇場、公会堂、スイングホール、松露庵で実施）のチケットを完売することができた。 ○今後も市民ニーズに対応しながら、市民文化の振興を図るため、管理する施設の特徴を生かした事業を展開し、完売実績を更に伸ばしていきたい。 | | | | | | | | |
| 二次評価 | ●事業団も設立20周年を迎える中、アルテ友の会の会員数はここ数年8500人前後で安定しており、他市区では例がない会員数を維持している。このメリットを活かしながら、主催事業のチケットは安定して販売されてきた。 ●競争激化、不景気や嗜好の多様化などで、チケット発売日から完売に要する期間が長くなってきている状況だが、招聘元を通さない、独自交渉による招聘事業の充実や各施設の特色に応じた質の高い芸術文化事業を低廉な価格で提供することなどにより、7年連続でチケットの完売を達成した。 ●今後も文化振興を図っていくため市民ニーズの把握に努め、引き続き市民にとって魅力のある事業を実施することが肝要である。 | | | | | | | | |
| ② | 指標名 | 事業収入 | | | | 目標値 | 140,000千円以上 | 実績値 | 149,492千円 |
| | 過去の実績 | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 平成15年度 | 達成率 | 106.8% | 達成状況 | 未実施・未達成（達成） |
| | （単位：千円） | 134,441 | 143,437 | 124,961 | 142,536 | | | | |
| | （対前年度比） | - | 8,996 | -18,476 | 17,575 | | | | |
| 取組内容 | ※16年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①収益事業増収のため、市民に受け入れられる内容の事業、格安なチケットを提供するために独自招聘事業を実施した。 ②独自招聘事業を実施するに当たって、チケット販売収入だけでなく、招聘事業を他の文化施設にネットワーク事業として売り込みを図った。 | | | | | | | | |
| 一次評価 | ※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ○主催（共催）事業（文化会館、芸能劇場、公会堂、スイングホール、松露庵で実施）のチケットを完売するとともに、独自招聘事業を他自治体の文化施設に売り込むネットワーク事業では、前年度に比べ321万円（74%）の増収を得た。 ○今後も格安なチケットを提供するための独自招聘事業の充実を図るとともに、事業経費の削減に取り組みたい。 | | | | | | | | |
| 二次評価 | ●厳しい経済情勢の中、国内外の一流アーティスト多数を市民文化会館を中心に、芸能劇場、公会堂、スイングホールに招くとともに、松露庵ではお茶会を実施するなど、自主事業として質の高い芸術文化事業を低廉な価格で市民に提供したことにより、目標値を達成した。 ●アルテ友の会会員や事業開催時の入場者へのアンケートを通して、市民ニーズの把握に努めた。 ●アーティストと事業団が直にやり取りして交渉する独自招聘事業を他市とも連携して行い収益向上に努めた。 ●今後は駐車場の管理や清掃業務等の業者選定に競争入札を導入するなど経費の削減に取り組み、よりいっそう効率的な事業運営を図ることが必要である。 | | | | | | | | |
| ③ | 指標名 | 執行体制の効率化 | | | | 目標値 | 固有職員退職時の不補充 | 実績値 | 退職者1名を嘱託職員で補充 |
| | 過去の実績 | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 平成15年度 | 達成率 | 100.0% | 達成状況 | 未実施・未達成（達成） |
| | 固有職員（単位：人） | 10 | 10 | 10 | 9 | | | | |
| | 取組内容 | ※指標、目標値の設定理由等について記入してください。 ①15年度固有職員退職者を、16年度は正規職員ではなく嘱託職員で補充した。 ②常勤職員が複数事務を担当し、嘱託職員の仕事をカバーする体制をつくった。 ③嘱託職員採用は、早番、遅番の交代勤務を条件とした。 ④事業実施時の応援体制を整えた。 | | | | | | | |
| 一次評価 | ※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ○平成15年度末退職となった固有職員1名分を正規の固有職員で補充せず嘱託職員で補充した。 ○今後も引き続き執行体制の見直し・効率化を進め、人件費の削減を図りたい。 | | | | | | | | |
| 二次評価 | ●事業実施の際は事業課が中心となるが、施設管理課も応援するなどの体制ができている。そのため、平成16年度は固有職員1名分を補充せず、嘱託化を図ることができた。 ●事業運営コストの大部分を占める人件費の抑制は大きな課題である。今後も固有職員の嘱託化に取り組むことで、経常的経費の削減を図っていくことが大切である。 | | | | | | | | |